

会 議 録

会議の名称		令和7年度第2回光輝学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和7年8月4日（月）開会9:30 閉会11:00		
開催場所		つくば市立葛城小学校南館1階会議室		
事務局（担当課）		つくば市立葛城小学校		
出席者	委員	足立 透、吉岡 良治、清岡 翔吾、宮腰 清一 館野 清子、齋 均、須藤 路子、佐伯 朋子、森 智世 手代木中学校：校長 四位 悟、教頭 菅沼 祐子 教務主任 内田 尚樹 葛城小学校：校長 栗山 良一、教頭 小松原 美香 教務主任 笠松 晶 手代木南小学校：校長 石田 容之、教頭 土井 志穂 教務主任 原口 知武 松代小学校：校長 横田 康浩、教頭 清水 匠 教務主任 野尻 和幸		
	その他	手代木中学校：生徒指導主事 根本 賢 8学年主任 佐々木 裕樹 葛城小学校：生徒指導主事 山口 香穂里 4学年担任 上野 彩織、6学年主任 宮内 宏和 手代木南小学校：1学年主任 宮本 英里 5学年主任 片岡 利香、6学年主任 山崎 晋 松代小学校：生徒指導主事 加藤 雅哉 保健主事 佐藤 真理子		
	事務局	教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
			傍聴者数	0人

非公開の場合はその理由			
議題	「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」 ～地域と連携した活動の充実に向けて～		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 自己紹介 4 協議 「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」 ～地域と連携した活動の充実に向けて～ (1) 今年度の活動・取組について (各校) (2) 全体共有・振り返り (3) 今後の予定 5 閉会		

<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 足立会長：本日は第2回目のコミュニティ・スクール協議会である。地域と連携した活動について熟議を深めていく上で、委員以外の先生方にも参加していただいている。</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 協議 (1) 今年度の活動・取組について (各校) 熟議「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」 ～地域と連携した活動の充実に向けて～ 【ファシリテーター：宮腰委員】 宮腰委員 本日はまず各校ごとに、目指す児童生徒像に向けて、地域と連携した活動を充実させるためには、どのような教育活動ができるか、地域としてどのような学校支援ができるかについて話し合いを進めていただきたい。</p> <p>《各校の時間》 ○手代木中 ・「あいさつ」の活性化を目指して学校と地域とが連携しながら、あいさつ運動等、何か活動ができるとよい。 ・今年度のこれまでの活動としては、8年生の職場体験に向けた活動が挙</p>
--

げられる。体験場所の選定は、地域学校協働活動推進員の方の協力の下、委託業者のサポートを得ながら行った。委託業者のサポートは、職場体験学習の充実及び教員の働き方の改善に向けて、大きな力となった。これからもCSと業者の力を合わせて、持続可能な方法を構築できるとよい。

- ・地域の力を「労働力」としてではなく、「ネットワーク」として活用していけるようになるとういのではないか。

○葛城小

- ・現在は、児童が卒業した後に委員になっている方が多い。おやじの会や読み聞かせなどで関わっている。可能な限り地域連携をしている。
- ・もともとの地元の方、筑波大関係者、産総研の方が多かったが、今は多様な方々が集まっている。児童にも社会に出る前に多様な人がいることを知ってほしい。新興住宅地としてだけでなく、自然もあり、伝統的なもの（八坂神社の祭り、納涼祭、昔遊びなど）もあり、様々な関りが可能である。児童には、様々な仕事や人間関係を経験してほしいと願っている。
- ・様々な仕事（会社）などにもつなげていければ・・・。
- ・職場体験なども。キッズフェスなどでも様々な関わりが持てるとよい。
- ・グランドデザインでは、3つの柱「学力、感謝と思いやり、たくましさ」をもとに進めている。予算を受けて、具体的な取組としてはどのようにしていくかを検討している。
- ・葛城版「コミュニティ・スクール」としては、リサイクル活動、キッズフェス（11/15）、防災教室（学校防災連絡会議と合わせて）を行う予定である。
- ・かまどで火を焚いて水を温めるのみではなく、お米を温めておにぎりをつくるといふ計画がある。
- ・昨年、一昨年は、お湯を沸かして終わってしまったので、すぐに終わってしまった。今回はお米を温めることができるので良かった。
- ・キッズフェスで保護者にお手伝いしていただいたり、一緒に作り上げたりする中で、自分たちでつくる大変さを感じることができる。議題の「地域との連携」が表れている。

○松代小

- ・松ボラの環境整備について主に検討していく。
- ・日時は10/11に父母教と共催で実施するか、また別にするか。
- ・参加人数によって実施場所も変更する（基本はプール周辺と校庭）
- ・できればエアコンフィルターなど、日々の清掃では行き届かない場所もできればよい。
- ・主に「開催日時」「父母教の関わり」「周知の方法」について議題としたい。

○手代木南小

- ・第2回美化作業に向けて、QRコード付きのチラシを作成し、回覧板にて周知を行うことで、地域にも広く呼び掛けていく。
- ・昔遊びの学習では、児童の祖父母世代よりもさらに上の年代の地域の方にも参加を呼び掛けるのも良いのではないか。
- ・4年生社会科の水の学習でつくったポスターを地域に掲示してもらったり、ミシンボランティアを募ったりするなど、地域の人と繋がりが持てるようにするとよいのではないか。

《共有時間、途中経過を各校から》

○手代木中

- ・8年生で職場体験が行われる。今までは教員が依頼しなければならなかったが、市の予算が確保されたため、新たな取組が進んでいる。打診の段階で3分の1が新規開拓だった。教員だけではこれだけの数を開拓していくことは難しく、業者委託は効果があった。学年全員分の体験先を手配するには、時間もかかる。保護者のネットワークを生かしてどう進めるのか検討していきたい。
- ・あいさつ運動での交流、安全点検、環境整備などでの地域人材の活用・連携も話題に上がっている。人的ネットワークとして整えていくのが本来の姿ではないのだろうか。

○葛城小

- ・葛城版コミュニティ・スクールがもともと存在している。リサイクル活動、葛城キッズフェスなどを地域として行っている。学校防災連絡会議を4年生の防災教室と抱き合わせて行う方向である。去年は火おこしをして水を温めるのみだったが、今年はお米を温めておにぎりにしていく。普段の授業ではできないようなこともバックアップしていきたい。

○松代小

- ・進捗状況を確認。各種活動が順調に進んでいる。活動していただいた方々へ謝金が出せるようになったことが大きい。今後は、どんな活動内容を推進するか、どれだけ参加者を集められるかが大切。地域への拡大については、まずはこれまで関わりのある方々、顔が分かる方などの近いところから進めていきたい。

○手代木南小

- ・美化作業を行うにあたりチラシを作成し、回覧板で地域に周知する。地域の方にも参加を呼び掛けることで、学校の活動と結び付けていきたい。生活科の昔の遊びについて、児童の祖父母世代よりもさらに上の世代の地域の方々に入っていただくのも一案ではないか。4年生社会科の水の学習でつくったポスターを地域に掲示させてもらったり、地域の方に家

庭科のミシンボランティアを依頼したりするなど、チラシにQRコードをつけて地域に呼びかけることをきっかけとして、地域との繋がりをつくりたいと考えている。

《各校の時間》

○手代木中

- ・部活動地域展開でも、地域との連携を図りながら進めていけるようになるとよい。誰が、どこにいるのか、何ができる人が地域にいるのか分からない。地域に呼びかけ、人材を探すことも必要となるのではないかと。
- ・「『おはようございます』と声をかけてください。」「この時間に生徒が登下校するので、散歩中や玄関先でちょっと気にかけて子供の様子を見てください。」と地域の方に呼びかけるなど、地域の子供たちに関心をもってもらい、地域全体で、子供たちを見守り、育てていこうという雰囲気をつくれるとよい。
- ・これまでのPTAの活動を地域に広げていくイメージがよいのではないかと。
- ・登下校や放課後の過ごし方等、学校へクレームが来ることがある。地域でできることは地域で…ができるとう嬉しい。

○葛城小

- ・キッズフェスは未定だが、保護者の方とどれくらい使えるのか、地域の方が何を行うのかが分かってからになる。6年生を中心にブースをつくる。お化け屋敷、ストラックアウト、アクセサリーブづくりを予定している。
- ・小学校で感謝の心をどのように培っていくのか（現在、町探検の中で保育園側として関わっている）普段は、なかなか地域と関わるのは難しいのではないかと。年に1度のみで継続的にかかわっていくのが難しい。保幼小カリキュラムとの関わりも。いつでも協力していきたいと考えている。保育園や幼稚園は増えてきているが、様々な体験を積み重ねていきたい。
- ・町探検で行ける場所として、地域的に様々な場所に行ける。目で見るとよさ、オンラインのよさなどを生かし、児童の自己有用感を高めるためにも生徒指導の立場からも。
- ・昔遊びで来ていただける方が年々少なくなっている。
- ・昔遊びは、デイサービスの関係において、団体としては、つくばにたくさんあるので利用していくとよい。

○松代小

- ・開催日時について、子供たちの登校に合わせて行うなら9月初旬が適切だが、暑い時期での開催では心配なので、10月がいいのではないかと。
- ・飲み物は各家庭で持ってくるので、かき氷などの付加価値を提供すると

参加率が上がる。ただし学校からは出せないで、父母教との共催ではどうか。父母教としては、総会決議にないことはできない。予算も限られている。今後検討していきたい。

- ・松ボラとしては10月に開催する方向で決定。父母教がどのようにかわるかについては、父母教内で検討している。
- ・周知方法としては、チラシを作成する。在校生に配布し、兄弟関係を通じて卒業生にも周知したらどうか。地域住民には、過去にかかわってくださった方に郵送する。
- ・手代木中のチラシを松代小で配布することもあるので、手代木中を通して配布するのはどうか。活動を知ってもらうことにもつながる。
- ・区会に周知することについては今後の課題とし、まずはこれまで学校と関わったことがある方々から始めたほうがよい。自発的には声をあげないが、学校から声がかかれば学校に協力したいと思っている人もたくさんいる。CS協議会委員から周知することも協力したい。
- ・スクリレ等のデータ配信も手軽でよいが、高齢の方は紙媒体のほうがよい場合も。周知の方法を複雑にすることで先生方の業務が増えていってしまうのであれば方法を変えることも必要である。先生は子どもたちと向き合う時間を大切にしてほしい。
- ・その他検討事項として。戦争体験などを伝えたい地域住民もいる。夏休みだと低学年中心になってしまう。学校で開催できれば、多くの児童を対象にできる。今後検討できればしていきたい。

○手代木南小

- ・手南まつりについて、児童館まつりや地域の方々とも連携ができるのではないかと。
- ・2年生生活科の町探検について、地域の情報に詳しいCSコーディネーターに事業所をリストアップする作業に協力していただけたことにより、新たな地域資源の開発につながっており、学校としては大変ありがたいと感じている。

(2) 全体共有・振り返り

○手代木中

- ・部活動地域移行における地域との連携はどのようにしていくか。地域のクラブとして、地域の方等が責任をどの程度負えるかも難しい。ハードルを下げたところから進めたい。
- ・地域の人材のネットワークづくりが重要となる。そこから具体的に動いていくことが必要。
- ・学校の困り感としては、人手不足が一番に挙げられる。少しでもCSが手助けできるとよい。

○葛城小

- ・リサイクル活動、葛城キッズフェス。
- ・保幼小との連携も考えられる。
- ・学校防災連絡会議は、昨年よりも活動内容を広げ、体験活動も。
- ・昔遊びや町探検でも御協力いただいて、回数を増やしたり、範囲を広げたりしていきたい。

○松代小

- ・地域の呼びかけについて、これまで関わってきた方へは直接声かけをしていきたい。CSからの個別の周知もお願いできることになった。
- ・「児童と向き合う時間を大切にしながら、無理なく活動の推進を行っていくように」との心強い言葉を頂いたので、肝に銘じて推進していきたい。

○手代木南小

- ・手南まつりで、地域の方々との連携ができるのではないかな。
- ・2年生の町探検について、地域の事業所を探す作業を地域の事情に詳しいCSコーディネーターの方に協力していただけたことにより、新たな地域資源の開発につながっており、学校としては大変ありがたいと感じている。

宮腰委員 どのようにネットワークを広げていくか。簡単どころから広げていきたい。引き続き各校で話し合いが必要。そのための核になる人が見えてきた。

○手代木南小

- ・手南まつりについて
敷地外である児童館の隣の道路で行っている。内容は、PTAとおやじの会
主催で保護者が中心となって進めている。市の許可をとる上で難しさを感じている。生涯学習推進課の方でも何とかできないか。
→生涯学習推進課へ持ち帰り
→CSとの共催ということは可能か。道路の許可も何とかしていきたいのだが。区会等の共催も入れてほしいと言われた。
共催という形をとれるのか？
→保留 規則とも照らし合わせていきたい。
→CS協議会は、児童生徒をどのように育てていくかを話し合う場、方向性を決めていくものである。

事務連絡（生涯学習推進課より）

- ・8/23 CS委員のための研修がある。
- ・7/15 CSだよりを発行。年4回予定

- ・ネットワークをつくるのは時間がかかる。しかし、委員の方で進めていかないと進まない。会議には地域の人材をお呼びすることも可能である。

(3) 今後の予定

- ・今年度年3回開催予定
3回目は令和8年2月10日 松代小学校にて開催予定

※本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定

5 閉会

令和7年度 第2回光輝学園コミュニティ・スクール 協議会

日 時 令和7年8月4日（月）9：30～

場 所 光輝学園つくば市立葛城小学校
南館1階会議室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 自己紹介

4 協 議 「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」
～地域と連携した活動の充実に向けて～

(1) 今年度の活動・取組について（各校）

(2) 全体共有・振り返り

(3) 今後の予定

5 閉 会

会 議 録

会議の名称		令和7年度第1回光輝学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和7年6月3日（火）開会 13:20 閉会 15:30		
開催場所		つくば市立手代木中学校B棟3階多目的室		
事務局（担当課）		つくば市立手代木中学校		
出席者	委員	近藤 大雄、足立 透、吉岡 良治、宮腰 清一、牧 陽子 小杉 真紀、齋 均、須藤 路子、佐伯 朋子、森 智世 手代木中学校：校長 四位 悟、教頭 菅沼 祐子 教務主任 内田 尚樹 葛城小学校：校長 栗山 良一、教頭 小松原 美香 教務主任 笠松 晶 手代木南小学校：校長 石田 容之、教頭 土井 志穂 松代小学校：校長 横田 康浩、教頭 清水 匠 教務主任 野尻 和幸		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1号（個人情報）に該当する情報を取り扱うため		
議題		「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」～地域と連携した活動の充実に向けて～		
会議録署名人		確定年月日		年 月 日
会議次第	1 開会 2 任命書の交付 3 自己紹介 4 授業参観			

5	説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて
6	会長・副会長の選出
7	協議 (1) 学校運営の基本方針 (2) 熟議「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」 ～地域と連携した活動の充実に向けて～ (3) コミュニティ・スクール協議会今後の予定について
8	閉会

1	開会 菅沼委員：ただ今から、令和7年度 第1回 光輝学園コミュニティ・スクール協議会を開会する。 はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。光輝学園 内田先生 をお願いしたい。 → 承認
2	任命書の交付 菅沼委員：続きまして、「任命書の交付」を行う。コミュニティ・スクール協議会委員の任命書は、机上に配布されている。
3	自己紹介
4	授業参観
5	説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて（村上社会教育主事）
6	会長・副会長の選出 ・会長 足立委員、副会長 牧委員 選出 →承認
7	協議内容 (1) 学校運営の基本方針について ① 光輝学園長（四位校長）：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明 光輝学園の名前は、平成7年当時、本校で行われていた文化祭・光輝祭に由来している。この文化祭は一人一人が生き生きと輝くと同時に、学校自体も元気に溢れ輝いてほしいという思いを込めて開催された。光輝学園という名称にはその思いが込められている。 その思いを受け、学園目標「未来をひらく力を身に付け、夢に向かって自ら学び一人一人が輝き活躍できる学園」と設定した。 学園の「目指す児童生徒像」は、9年間を見通して、未来を志向し、夢や希望をもってたくましく生きる児童生徒の育成を目指している。 学園内では様々な「小小同士の連携」、「小中交流行事」を実施しているが、それらの行事を通して、いかに目指す児童生徒像に近づけるかを考えながら計画し、実行している。具体的には、合同での引き渡し訓練

の実施、教職員の資質向上に向けての研修の実施などを行っている。

変化の激しい現代社会、今後さらに加速していくことが予想される。現代社会において、学校だけの力では子供の育成に太刀打ちできない状況である。義務教育の9年間は、子供たちは地元、地域で育っていく。これからは、今まで以上に学校・保護者・地域の三者が思いを共有し、多くの人たちで関わり育てていく必要がある。

未来を自らの力でひらき、夢に向かって進んでいくための様々な力を身に付けさせたいと考える。

② 葛城小学校（栗山校長）：葛城小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数 510 名、通常学級 18、特別支援学級 4、教職員数約 40 名である。

学校教育目標「夢や希望をもち、心豊かにたくましく生きぬく児童の育成」を設定している。また、経営方針は「一人一人を大切にし、愛情と信頼を基盤とした教育活動」、そして、学校の組織目標は、「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育活動の推進」としている。

時代の変化が激しい社会で、子供たちの可能性をどう伸ばしていくか、様々な活動を通して達成していきたいと考えている。また、学校全体の取組として、「かしこさ」「なかよし」「たくましき」の知徳体の3本の柱を掲げている。学校教育の充実のためには、地域、保護者の御支援が重要になる。御協力をお願いします。

③ 松代小学校（横田校長）：松代小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数 373 名、通常学級 12、特別支援学級 3、通級での日本語学級が 2 クラス、今年度で創立 35 周年になる。

学校教育目標は、「豊かな心と創造力にあふれ、たくましく生きる児童の育成」で、経営方針として、「仲間と対話し支えあう、みんなが楽しい学校づくり」を設定した。令和 5、6 年度につくば市のルールメイキングプロジェクトの指定を受け研究してきた。そこで大事にしてきたことは、対話を通して協働性を高めていくことである。この実践を通して今年度は、対話を通して、多様性を育て、みんなが楽しくするためにはどうしたらよいかを考えさせたい。

この経営方針実現のため、「学び」「心」「身体」を設定した。「学びわくわく」では、学ぶ楽しさを実感できる、自立的な授業づくりを目指す。「心ポカポカ」では、思いやりの心を育むことをねらいとし、ルールメイキングを有効活用し、納得解を導く力、折り合いをつける力を育てていく。心の安定基地となる学級づくりを目指す。「身体もりもり」においては、リズムジャンプを活用した体力の向上、栄養教諭配置の強みを生かし、食に関する指導の充実にも力を入れていきたい。

④ 手代木南小学校（石田校長）：手代木南小学校グランドデザインの説明

Our Purpose（志）が学校教育目標にあたる内容で「よりよい未来を築くために人を育てる」を基本としている。

Our Dream（夢）は具体的な取り組みで、「児童一人ひとりが夢をもつ

て生活できる学校」、「コミュニティ・スクールで地域と夢を共有できる学校」、「教職員が、夢をもって勤務できる学校」としている。「児童一人ひとりが夢をもって生活できる学校」に関しては、「教えから学びへ」を実現する。研究テーマは「児童が楽しくわくわくできる授業」とした。

Our Belief (信念) は、「失敗しても挑戦を称えよう」「Best より Better をめざせ」「人と違った“いいね”を育てよう」となっている。

組織目標を「児童や地域にとっての 教職員にとっての Well-Being をめざして」とし、重点的な取組の柱としている。これらの取組を推進する上で、地域の人材資源等を活用した体験的な学びのさらなる充実や、学校運営の質を高める地域との協働体制の構築などが一層重要になり、その中心となるのが、コミュニティ・スクールとの連携であると考えている。

以上のことを踏まえながら、一人一人が Well-Being を実感し、未来に向かってともに歩むことができる手代木南小学校をつくっていききたい。

⑤ 手代木中学校（四位校長）：手代木中学校グランドデザインの説明

今年度テーマに掲げているのは「生徒・そして教師も成長できる学校」である。それを具体化するために、6つの力で囲んでいる。

その中でも、昨年度の協議会で課題として出た、「あいさつ」に力を入れたい。あいさつは最も大切なコミュニケーションツールである。教職員から積極的にあいさつをしていこうと話をしている。

もう1つは、3年間言い続けている「思いやり」にも力入れていきたい。感謝の気持ちをもつ、人にされて嫌なことはしない。これらを軸にしていきたい。

また、学力、自立する力も付けていき、自分の道は自分で切り開いていき、社会に出た時に迷わないようにさせたい。

生徒総会でのスローガンが「全信全礼」となった。「みんなを信じることとマナーが大切である。」という意味である。グランドデザインにも示している思いが繋がったと感じた。これからの学校経営でも、子供たちや先生方を全力で信じていきたい。

(2) 熟議「目指す児童生徒像に向けた教育活動・学校支援の在り方」

～地域と連携した活動の充実に向けて～

【ファシリテーター：近藤委員】

近藤委員 本日はまず、各校ごとに、今年度から始まった「地域と学校との連携事業」に係る事業計画および予算計画について、各校教頭より説明がある。その後、それらの計画も踏まえながら、本協議のテーマの下、目指す児童生徒像に向けて、地域と連携した活動を充実させるためには、どのような教育活動ができるか、地域としてどのような学校支援ができるかについて、ワークシートに沿って話し合いを進めていただきたい。

・各校の事業計画・予算計画について（各校教頭より）

→ 各校資料に沿って説明

・話し合い（各校ごと）

① 手代木中

- ・「あいさつ」「見守り」「環境整備」という点で学校と地域が連携できるとよいのではないかと。
- ・「地域との連携」の「地域」は、どのような範囲を指すか。地域の結び付きを強化する活動で具体的に何ができるか等を考える上でも、捉え方を共有したい。
- ・「ボランティア謝礼」は、どのような活動に対して、どのくらいの金額が支払われるのかについて、学園・市等である程度統一した方がやりやすい。
- ・環境整備は、保護者だけでなく、地域の方の協力も得て、コミュニティ・スクールとしての活動にできるとよい。

② 葛城小

- ・活動内容については、葛城版コミュニティ・スクールにおいて実施してきた活動を継続していきたい。
- ・予算について、どのようなものを購入できるのかについて検討した。
- ・委託料の適用範囲について市の担当者の方に話を聞いた。

③ 松代小

- ・地域にはたくさんのすばらしい人材が居住している。その人材をどのように学校とつないでいくか、CS委員として力になりたい。
- ・そのためには、人材バンクのような積み重ねがあるとよい。
- ・学校支援ボランティア「松ボラちゃん」を核として、徐々に地域に展開していく形が取れるとよい。まずは、在校生・卒業生保護者などの顔が見える方からスタートすると、安心・安全に実施できるのではないかと。

④ 手代木南小

- ・学校で支援を必要としている部分については、地域に協力を求めるだけでなく、保護者が自分事として「みんなで子育て」の意識をもち、連携してすべての子供へ支援をしていくことが大事である。
- ・学校で教員が助けてほしいと思っていることについて、教員へのアンケートを夏休み前までに実施する。それをもとにコミュニティ・スクールとして何ができるかを考えていきたい。

・全体共有、振り返り

近藤委員 各校の発表からは、人材バンクの構築・活用、今まであった組織の活用・発展等、地域性・特性のある話が出た。これから、どのように地域と連携していけばよいのか、すぐには答えが見つからないが、学園の目標は、「子供たちの未来をひらく」が大きなテーマにもなっているので、ぜひそのテーマの実現に向けて、本事業を進めていけるとよい。また、この学園には、いろいろな人材がいる。その人材を吸い上げ、子供たち

のために活用できるとよいのではないかと考える。

(3) 今後の予定

・今年度年3回開催予定

2回目は、令和7年8月4日 葛城小学校にて開催予定

3回目は、令和8年2月10日 松代小学校にて開催予定

8 閉会

※本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定